

ふきだしを使って頭の中を整理しよう

単 元	立体の体積	対象学年	6 年
ね ら い	ふきだしの中に自分の考えたことを書き表すことで、自分の思考を整理して順序立てながら問題を考えることができる。		

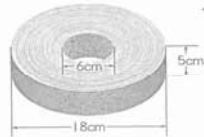
1 学習のしかた

児童が立式をしてから問題解決をする必要がある問題を解く際、式の右隣に自分の思ったことや考えたことを書く。

- (1) 実際にふきだしを使って問題を解いているノートを見せる。

③ 右のような形のバウムクーヘンの体積をくふうして求めましょう。

☆ふきだしを使って問題を解こう。



解き方

$$9 \times 9 \times 3.14 = 254.34$$

$$3 \times 3 \times 3.14 = 28.26$$

$$254.34 - 28.26 = 226.08$$

$$226.08 \times 5 = 1130.4$$

130.4

式で求めよう
 円と真ん中に穴かいてある
 真ん中もひかいてある
 円はひかいてある
 高さにもひかいてある
 130.4と書いてある

- (2) ふきだしを使って問題を解く際の注意点について確認する。

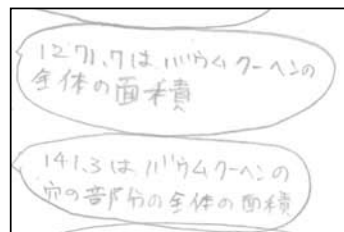
- ① ノートの左側に立式をして、右側にふきだしを書く。
- ② 自分の考えは消すことができないとする。そのため、ふきだしの内容は、文字を書きまちがえたとき以外は消しゴムを使わない。
- ③ ふきだしの内容は自由。関係のあることなら思いつくままに書いてよい。ただ、ふきだしの例を提示する際に学年に応じたレベルのふきだしにする。

- (3) ふきだしの例を紹介する。

- ① 計算して求めた数値の説明をしているふきだし

「1271.7は、バウムクーヘンの全体の面積。」

「141.3は、バウムクーヘンの穴の部分の全体の面積。」



- ② 何をすればよいのか、見通しを立てているふきだし

「円だから底面積を求めるには式でやる。」

「真ん中の穴の部分はひかないといけない。」

